

第1回 富士見市安全安心なまちづくり防犯推進市民懇談会  
会議録

日 時 平成30年9月11日(火) 18:00~19:40

場 所 富士見市役所 第1会議室

出席者 ◎市民懇談会

|    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 藤井 | 清野 | 高野 | 羽石 |
| ○  | ○  | ○  | ○  |
| 清水 | 高橋 | 傍嶋 |    |
| ○  | ○  | ○  |    |

◎富士見市

星野光弘市長

◎事務局

市川自治振興部長、【安心安全課】落合課長・田中主事

1 開 会

2 市長あいさつ

3 懇談会について

事務局より懇談会の趣旨等について説明を行った。

4 自己紹介

参加者と事務局の自己紹介を行った。

5 座長選出

清水 実氏を座長として選出した。

6 講話 - 東入間警察署管内の犯罪情勢について -

講師 東入間警察署 生活安全課 窪井係長

7 質疑応答・意見交換

参加者) 街頭防犯カメラの補助制度について、学校からの申し込みは可能か。

事務局) 学校施設内を撮影するものについては施設監視カメラの扱いとなり、本補助金の対象からは外れる扱いとなる。

参加者) 住宅地では地域の防犯パトロールなど、地域防犯の体制がしっかりしているが、農地は逃げ場もなく、犯罪が発生した際の危機感を覚える。

- 参加者) 防犯を目的としたのぼり旗を設置しているが、効果的であると感じている。また、日常生活の中で危険個所を共有してもらうための試みも行っている。無理なく継続していくことが大切だと思う。
- 参加者) 定期的に一斉パトロールを実施しているが、防犯意識の向上に効果的だと感じている。住宅地が広がり、町内で顔を知らない人が増えている。人間関係作りが課題。地域のイベントへの参加を促すなど、コミュニケーションをとっていきたい。また、PTAの役員による早朝の見守り活動は小さな子供がいる親御さんに負担が大きいという話を聞く。適材適所ではないが、柔軟にできる人ができることをやっていく体制作りが重要。
- 参加者) 見守りのポイントに椅子を設置し、時間に余裕のある人が座っていてもらうだけでも効果があると思う。
- 参加者) 高齢者は普段話す人も少なく、話し相手を欲している。特殊詐欺の電話に出ってしまうなどの原因はそういった寂しさも一因と感じている。また、玄関のインターホンが昔ながらのブザーのみのものが多く、直接玄関に出て話をしなければならぬ状況下にあることも危なく感じる。
- 参加者) ナンバーディスプレイ機能がある電話は番号非通知着信を認知できる点で特殊詐欺の防止に役立つと思う。
- 参加者) 特殊詐欺に限った話ではないが、相手が電話口で一生懸命話をしているとどうしても切りづらいという話を聞いている。事前に切り文句を考え、準備しておくことや、一度電話を切ってかけ直すことも効果的である。
- 参加者) 何でもいから地域で情報を共有することが重要である。また、防犯パトロールなどはあえて実施日時を設定せずに時間帯をずらして実施するなど「犯罪者から見える防犯」を意識することが大切。
- 参加者) 訪問販売を装った詐欺や、インターネット通販を騙った詐欺が増えている。金銭的な被害はもちろん、精神的な被害も大きい。防犯的な観点では、心無いドライバーの一時停止無視など、尊法意識の欠如が気になる。
- 参加者) 保護者の中で防犯意識のある人とない人の温度差が気になっている。新潟で発生した事件のようなことが起こらないか不安。子どもたちが登下校時にひとりになってしまうポイントを地図などに落とし込み、見守り場所の見直しを行う必要性を感じている。市のマスコットキャラクターを活用した見守り看板を設置するなど、市全体で防犯に力を入れているアピールを行うことも効果的であると思う。

## 8 今後の予定について

事務局より次回懇談会の開催スケジュール（2月を予定）について説明を行った。

以上